

# 組合創立50周年を迎える

## 日本フォームスチレン工業組合

### 先人に学び、希望に満ちたバトンを次代へ

日本フォームスチレン工業組合 片岡 孝次  
工業組合 理事長



戦後、1965年、日本フォームスチレン工業組合は、当時のプラスチック製品が不足していた中、国内のプラスチック製品メーカーが一堂に集まり、日本フォームスチレン工業組合を設立した。以来、50年が経過した。この間、日本フォームスチレン工業組合は、国内のプラスチック製品メーカーの発展に貢献し、国内のプラスチック製品の生産高を増やしてきた。また、海外への輸出も増加し、国際的な競争力を持つようになった。現在は、国内のプラスチック製品の生産高の約1割を占めている。今後も、国内のプラスチック製品の生産高を増やし、国際的な競争力を持つようになることを目指している。



### 『創立50周年を祝して』

発泡スチロール協会 会長 天知 秀介

日本フォームスチレン工業組合は、戦後50年を迎える。この間、国内のプラスチック製品の生産高を増やし、国際的な競争力を持つようになった。現在は、国内のプラスチック製品の生産高の約1割を占めている。今後も、国内のプラスチック製品の生産高を増やし、国際的な競争力を持つようになることを目指している。



現在もEPS主力用途の水産箱、自動車フロアスペース、住外の外観断熱工法、盛土工法

# 周年を迎える

## 工業組合

### 全自動成形機 近代化に貢献

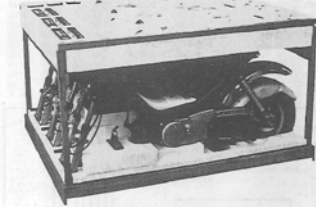
#### 主力の箱物、建材も需要増に

日本フォームスチレン工業組合は、50年(昭和40年)に設立された。設立当初は、主にプラスチック製品の生産に特化した。その後、国内のプラスチック製品の生産高が増え、国際的な競争力を持つようになった。現在は、国内のプラスチック製品の生産高の約1割を占めている。今後も、国内のプラスチック製品の生産高を増やし、国際的な競争力を持つようになることを目指している。

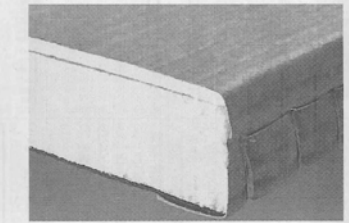
近年、国内のプラスチック製品の生産高が増え、国際的な競争力を持つようになった。現在は、国内のプラスチック製品の生産高の約1割を占めている。今後も、国内のプラスチック製品の生産高を増やし、国際的な競争力を持つようになることを目指している。



現在もEPS主力用途の水産箱



輸出用オートバイの大型梱包にも



炭芯材に使用されたEPS